

令和4年6月 発地別延べ宿泊者数割合

【国内】

(単位：人泊、%)

	県内	福岡県	その他九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北・北海道	国内計
令和4年6月(速速報値)	53,521	88,738	44,394	5,718	15,285	18,574	8,639	34,025	3,796	272,690
令和3年6月(確報値)	27,061	44,591	24,083	2,056	6,193	9,380	3,680	18,458	987	136,489
前年同月比	197.8	199.0	184.3	278.1	246.8	198.0	234.8	184.3	384.6	199.8
令和2年6月(確報値)	29,070	36,031	16,058	1,751	5,728	8,228	3,770	11,128	1,017	112,781
令和2年同月比	184.1	246.3	276.5	326.6	266.8	225.7	229.2	305.8	373.3	241.8
令和元年6月(確報値)	48,562	81,860	52,271	7,915	24,179	24,069	12,327	43,202	4,964	299,349
令和元年同月比	110.2	108.4	84.9	72.2	63.2	77.2	70.1	78.8	76.5	91.1
令和4年5月(速速報値)	46,391	92,087	47,324	6,945	20,046	27,091	13,000	47,233	4,079	304,196
前月比	115.4	96.4	93.8	82.3	76.2	68.6	66.5	72.0	93.1	89.6

【国外】

	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他アジア	欧米豪その他	外国小計
令和4年6月(速速報値)	*	*	*	*	*	*	*	1,186
令和3年6月(確報値)	34	110	0	2	3	413	71	633
前年同月比	*	187.4						
令和2年6月(確報値)	61	54	41	2	0	860	150	1,168
令和2年同月比	*	101.5						
令和元年6月(確報値)	31,292	5,939	7,111	10,608	439	2,849	1,861	60,099
令和元年同月比	*	2.0						
令和4年5月(速速報値)	*	*	*	*	*	*	*	948
前月比	*	125.1						

* 令和4年発地別宿泊者数(速速報値)は、サンプル数が過小のため表示しない

【全体】

	合計
令和4年6月(速速報値)	273,876
令和3年6月(確報値)	137,122
前年同月比	199.7
令和2年6月(確報値)	113,949
令和2年同月比	240.3
令和元年6月(確報値)	359,448
令和元年同月比	76.2
令和4年5月(速速報値)	305,144
前月比	89.8

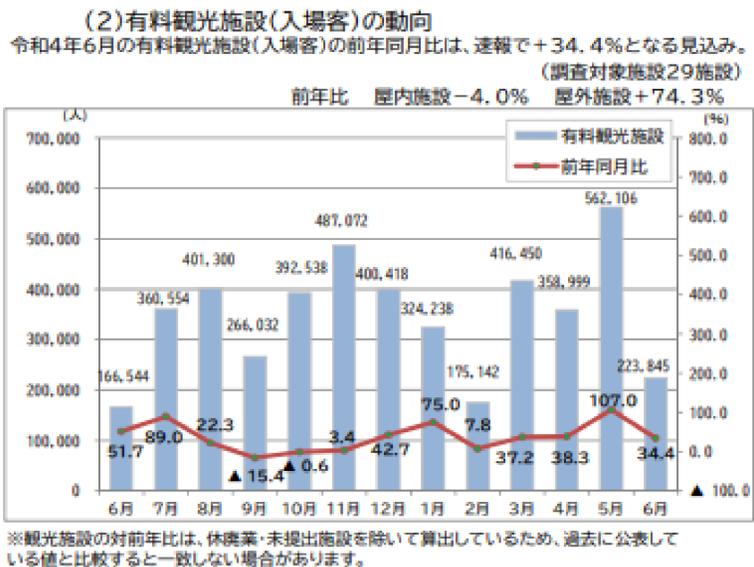
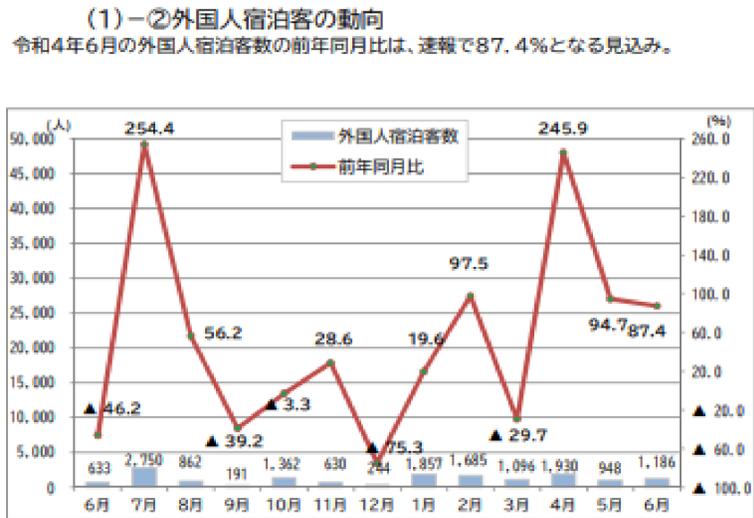
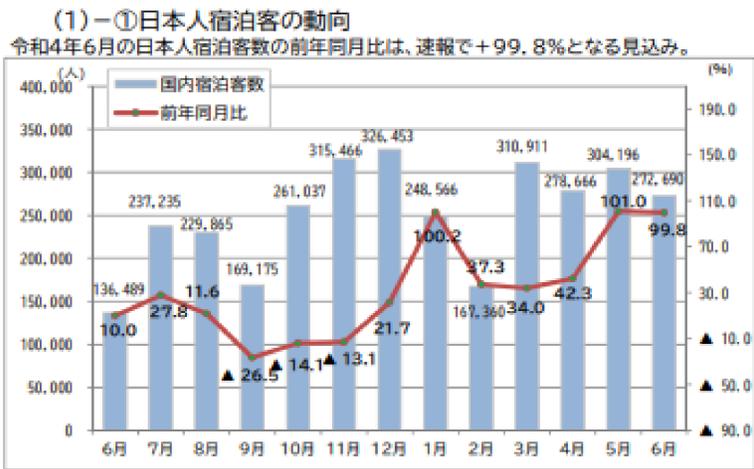
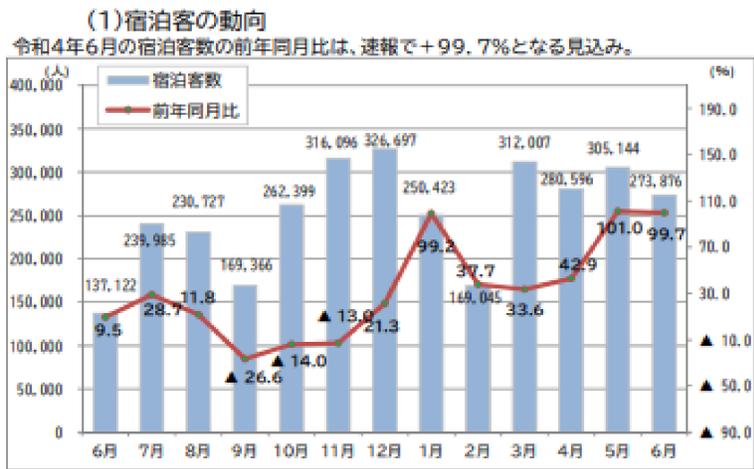
R3年1月調査から、宿泊客数調査の対象を従業員数10人以上の全施設(186施設)に変更しました。
この変更に伴い、R2年、R元年の公表値についても同規模施設数の推計値に再計算しています。
※発地別延べ宿泊者数は、速報の公表時に大きく変更されることがあります。

出典：大分県観光統計調査

<傾向・分析>

- 国内の延べ宿泊者数は、5月に比べ比較的旅行需要の低い月であることから前月比は89.6%と減少しているが、新しいおおい旅割が延長されたことや、引き続き行動制限がなかったことなどから前年同月比は199.8%、コロナ禍前の令和元年同月比も91.1%まで持ち直している。
特に大分県在住者は前月比115.4%、令和元年同月比110.2%、福岡県在住者は令和元年同月比108.4%とコロナ禍前と比べても増加しており、旅割の影響や旅の分散化が進んでいるとみられる。
- 国外の延べ宿泊者数は、前年同月比187.4%、令和2年同月比101.5%、前月比125.1%。6月10日から観光目的での入国が条件付きで許可されたが、コロナ禍前の令和元年同月比は2.0%と依然として厳しい状況が続いている。
- 全体の延べ宿泊者数は、前月比89.8%、前年同月比199.7%、令和2年同月比は240.3%。コロナ禍前の令和元年同月比では76.2%となっている。

令和4年6月の宿泊客等の動向
(令和3年6月～12月確報、令和4年1月～6月速報)



出典：大分県観光統計調査

<傾向・分析>

- 日本人宿泊客は、昨年6月は福岡や東京などの全国各地で「まん延防止等重点措置」の適用や緊急事態宣言が発令されていた影響で低水準となったが、6月末に9都道府県にて宣言が解除されると7月は増加に転じた。しかし、7月末から再び感染者数が増加、緊急事態宣言地域の拡大などをうけ8月・9月の宿泊客数は減少傾向が続いた。9月末に全国で緊急事態宣言が解除となり、「新しいおおいの旅割」も再開となったことから10月・11月は増加。12月6日からは「新しいおおいの旅割」の対象に近隣県も加わったことなどから更に増加したが、オミクロン株の感染拡大の影響により県内でもまん延防止等重点措置が適用となった1月・2月は2カ月連続で減少となった。3月に入り全国各地でまん延防止等重点措置が解除されたことなどから、第6波の前と同水準まで持ち直し、4月・5月・6月は行動制限がなかったことなどから高水準が続いている。
- 有料観光施設の動向については前年同月比134.4%。ただし、ゴールデンウィーク期間に旅行需要の高かった前月と比べると約半数にとどまった。
- 外国人宿泊客は、6月10日より観光目的の入国が条件付きで解除されたが、未だその影響は見られず、依然として低水準が続いている。
- 全体においては、未だインバウンドの回復が見られない中、国内宿泊者の動きがそのまま反映されたかたち。国内宿泊者の動きは、今年3月以降は感染者数の大幅な減少は見られないものの、行動制限がなかったことや旅割等の影響により宿泊者数は比較的高水準が続いている。Withコロナの生活がスタンダードになるにつれ、旅行や県をまたぐ移動に関しても気を付けながら行う人々が増えているのではないかと考えられる。